

From New York

Vol.2

世界の街の“今”を、現地からお届けします



FIFTH New York Office (<http://www.fifthwiki.com>)

「ルサーク」といえば、1974年から常に上流階級御用達のレストランとして君臨してきたレストランです。その「ルサーク」とニューヨークタイムズ紙で圧倒的な影響力を持つ美食評論家、フランク・ブルーニ氏は、何年も前から生死をかけた戦いが繰り広げられてきました。

1989年、当時まだ学生だった私は数十ドルを握りしめ、「ルサーク」のカウンターに座り、まるで『華麗なるギャツビー』のような別世界を垣間見るのが好きでした。今でも'伝説のレストラン'と呼ばれる「ルサーク」は当時、ホテルの女帝と呼ばれたレオナ・ヘルムズリー女史が所有するヘルムズリーホテルの1階に陣取っていました。高い天井とそこに輝くシャンデリアは高級感と威厳を醸し出しており、何よりもきらびやかに着飾ったソーシャルエリートと呼ばれる彼らが、一層お店の雰囲気を引き立てていたのです。

その頃は、湾岸戦争中にも関わらず、「ルサーク」では上流階級の華やかな非日常が繰り広げられており、彼らの表情から戦争を気にする様子はまったく見られませんでした。

その後、徐々にレストランの客層は、オールドリッチからウォールストリートの若いエリート達に変わっていき、1997年、クラシックでありながら前衛的な何とも不思議な店構えにイメージチェンジしたのです。その「カーニバル」をテーマとしたインテリアは大成功。連日連夜、店内はまさに「カーニバル」状態で、遂にはドリンクメニューにグラス1杯1300ドル(13万円)のワインが登場し、瞬く間に人気ドリンクとなりました。店名も「ルサーク」から「ルサーク2000」に変え、見事に時代とマッチしたインテリアとフードは、いくつもの賞を総なめにしました。

2004年、その「ルサーク2000」が当時話題だったブルーンバークNY市長のビル、「ブルーンバークタワービル」に移転するというニュースが発表されました。レッドカーペットが敷かれたオープニング当日は、市長をはじめ続々とセレブリティが来店し、華々しいスタートを切ったのです。

発表から1年と6ヶ月もの歳月をかけた内装は、数々のブティックホテルを手がけたアダム・ティハニーが担当し、その斬新なインテリアも話題となりました。

巷では、フランク・ブルーニ氏が覆面で「ルサーク」を数回訪れたとの噂が広がり、ニューヨーカー達は、ニューヨークタイムズ紙の「Dining and Wine」での発表を今か今かと待ちわびていました。

そして遂に、フランク・ブルーニ氏のコメントが発表となったのですが……。 (続く)

